

まちづくり交付金 事後評価シート
東岸和田駅周辺地区

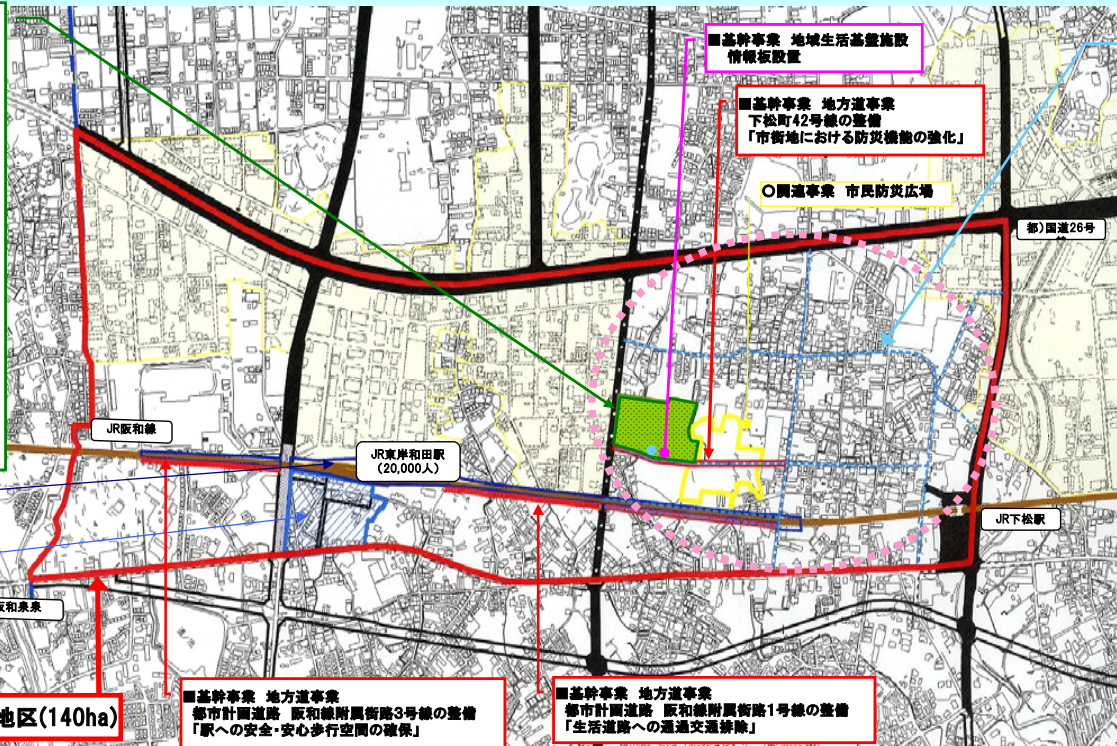
平成20年12月

大阪府岸和田市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名		岸和田市		地区名		東岸和田駅周辺地区			面積		140ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期		平成20年度		交付対象事業費		2,739百万円		国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名																
		基幹事業	道路整備(阪和線附属街路1号線、阪和線附属街路3号線、下松町42号線)、公園整備(上松公園)、情報板設置(1箇所)															
		提案事業	公園設計のためのワークショップ、防災まちづくりワークショップ、住民の満足度調査															
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし								削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし															
	新たに追加した事業	基幹事業	なし															
		提案事業	情報標示設置、井戸設置				防災啓発を目的とし、基幹事業(情報板)から一部提案事業(情報標示)へ変更すると共に、井戸の設置を追加。				影響なし							
	交付期間の変更	当初変更	平成16年度～平成20年度		—		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期				
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値								
	指標1	駅への移動距離、到達時間の短縮	m分	1,514 15	H16	1,354 8	H20	— —	1,354 8	○ ○	あり なし	道路3路線の空間確保により、緊急車両・自転車・歩行者の駅へのアクセスの向上に寄与。		平成22年2月頃				
	指標2	幹線道路における混雑度	deg	2.0	H16	1.9	H20	—	計測不能	計測不能	あり なし	● その他の数値指標2を設け、事業目標の達成状況を検証。		—				
	指標3	区域内歩道施設の構造上等の不満度の解消	%	57	H16	30	H20	—	21	○	あり なし	道路3路線の歩道整備により、歩行者の安全で快適な交通環境の向上に寄与。		平成22年2月頃				
	指標4	一時避難困難地の空白地帯の解消面積	ha人	49 0	H16	0 4,000	H20	— —	0 4,000	○ ○	あり なし	防災まちづくりワークショップの実施により、防災上の課題を認識。一時避難地の整備と併せ、情報板・井戸の設置により、地域の安全性向上に寄与。		平成21年4月頃				
	指標5	地域コミュニティ活動の場の提供	回/年	0	H16	15	H20	—	15	○	あり なし	地域コミュニティ活動の場となる公園の設計のためのワークショップ実施により、地域コミュニティの活性化に寄与。		平成22年3月頃				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期				
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値								
	その他の数値指標1	一時避難地への到達距離の短縮	m	766	H16			—		582			一時避難地となる公園の整備と併せたアクセス道路の整備等により、防災機能の向上に寄与。		平成22年2月頃			
その他の数値指標2	幹線道路における混雑度緩和	係数	1.1	H16			—		0.7			道路3路線の整備により、幹線道路における自転車・歩行者が減少し、混雑度の緩和に寄与。		平成22年2月頃				
4)定性的な効果発現状況	*平成20年度実施の住民満足度調査において、以下のような効果発現がみられた。 ・道路(3路線)の整備により、歩行者の安全性及び利便性が向上すると思えますかとの問いに対し、60.7%(3路線平均)から良くなると回答を得た。 ・上松公園の整備効果について尋ねたところ、子供達の遊び場ができる71.0%、幅広い年齢層にとって憩える空間ができる55.0%、公園内の緑化により地域の環境改善が図られる58.0%、災害時の避難場所として防災機能が向上する67.0%の回答を得た。 *当該道路整備(3路線)により、密集した既存市街地において、一時避難地への到達距離が短縮されると共に、選択できる避難路が増加することから、地区の防災機能が向上する。																	
5)実施過程の評価	実施内容														実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング		進捗管理については、地区市民協議会ならびに府・市を含めた行政機関と連携を図りながら、PRを行い、毎年の事業進捗について、モニタリングを実施し、市民と情報の共有を行う。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	フォローアップ時においても、モニタリングを通じ、まちづくり交付金事業の周知を含めた情報共有を図る。						
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス		上松公園整備において、地域に愛される公園づくりを行うために、地域住民と施設整備内容についてワークショップ手法を用い、施設内容を検討する。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	公民協働のまちづくりの一環として、上松公園の管理・運営について、地元町会や市民協議会と協議し進める。						
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築		道路・公園等、都市基盤の整備の進捗にあわせ、南海・東南海地震等の災害を想定し、防災訓練を行うための啓発・研修活動を行う。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	上松公園において防災訓練を行うなど、地域における防災活動を促進する。							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
		まちの維持・活性化を目的にボランティア活動等を行う地区市民協議会と、まちづくり活動推進事業による協働まちづくりをベースに、事業終了後も地域主導のまちづくり、地域の活性化に向けて継続的な協議を行う。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	公民協働のまちづくりに向け、上松公園の管理・運営や、地域防災力の向上に向けた取り組みについて継続的な協議を進める。							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

東岸和田駅周辺地区(大阪府岸和田市) まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:交通網の整備にあわせ公共施設の有機的な連携による『安全で快適な都市の魅力のあるまち』の実現 目標1:鉄道高架化ならびに、ネットワークを形成する交通網の整備改善による利便性の高い都市拠点の創生を図る。 目標2:交通バリアの解消による誰もが安心・快適に暮らせる生活環境の創出。 目標3:道路・公園による防災ネットワークの形成を図り、安全なまちの実現。 目標4:だんじりを中心とした地域資源の活用による地域コミュニティの活性化を図る。		駅への移動距離、到達時間の短縮	単位:m 分	1514 15	H16	1354 8	H20	1354 8	H20
		幹線道路における混雑度	単位:deg	2.0	H16	1.9	H20	計測不能 →その他の数値指標2	H20
		区域内歩道施設の構造上等の不満度の解消	単位:%	57	H16	30	H20	21	H20
		一時避難困難地の空白地帯の解消面積	単位:ha 人	49 0	H16	0 4000	H20	0 4000	H20
		地域コミュニティ活動の場の提供	単位:回/年	0	H16	15	H20	15	H20
□提案事業 まちづくり活動推進事業 ＜上松公園計画・設計のためのワークショップ＞  ■基幹事業 公園事業 都市計画公園 上松公園の整備 「コミュニティ活動拠点の創出」  完成イメージ図									
○関連事業 限度額立体交差事業 「幹線道路の混雑度解消」 ○関連事業 東岸和田駅東地区防災街区整備事業 「市街地における防災機能の強化」 主)大阪和泉泉 東岸和田駅周辺地区(140ha) ■基幹事業 地方道事業 都市計画道路 阪和線附属街路3号線の整備 「駅への安全・安心歩行空間の確保」 ■基幹事業 地方道事業 都市計画道路 阪和線附属街路1号線の整備 「生活道路への通過交通誘導」		□提案事業 まちづくり活動推進事業 ＜防災まちづくりワークショップ＞  タウンウォッチングを行い、避難時に障害となるまちの課題や災害時に利活用可能な場所・施設の点検を行いました。 □提案事業 地域創造支援事業 ＜井戸の設置＞ 図面の凡例 ● 防災啓発を目的に、上松公園に災害時に有用な井戸を設置。  井戸設置イメージ ＜道路標示の設置＞ 図面の凡例 ● 地域で避難路に対する意識を共有するための情報標示を電柱に設置。  道路標示イメージ							
まちの課題の変化		・自転車・歩行者交通ネットワークの整備により、これまで幹線道路に混在していた交通の機能分化が図られ、駅へのアクセシビリティの向上を図ることができると共に、交通のバリアフリー化が進み、安全で快適な交通環境の向上を図ることができる。 ・避難ルートの拡大及び避難地の確保により、防災機能の向上が図られる。 ・防災まちづくりワークショップにおける意見を基に、地域で避難路に対する意識を共有するための情報標示並びに災害時に有用な井戸の設置を実施することにより、防災意識の涵養が図られる。 ・公園設計のためのワークショップにおける意見を基にした公園整備により地域コミュニティの活性化に寄与。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		・駅へのアクセス機能の持続のため、また、安全で快適な歩道空間の維持のため、今後は、道路の適切な維持管理を行う。 ・主要地方道岸和田港塔原線・市道並松上松線の慢性的な渋滞の解消を図るため、限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業)の更なる推進を行うと共に、JR阪和線高架化事業完成までの間、適切な交通処理により、住宅地内の通過交通を抑制する。 ・JR阪和線の高架化による市街地の一体化により、一時避難地である上松公園の誘致圏の拡大を図る。さらに、踏切待ち時間の解消と区画整理事業完成後における地区内道路ネットワーク形成により、祭礼をはじめとする地域活動の活性化を促進する。 ・地域防災力の向上と持続には、地域住民の防災に対する継続的な意識啓発と活動力の向上が不可欠であることから、防災訓練等を通して、地域における防災活動を促進する。 ・上松公園が地域に根付いた公園となるよう、バランスのとれた運営を検討する。							